

DETAIL OF TAKAOKA

ディテールに宿るもの



天の邪鬼は大屋根を担ぎ、
龍は月を見て盃を傾ける。

●重要文化財 雲龍山 勝興寺

門をくぐると、巨大な本堂が現れる。約40メートル四方。地方においては、破格の規模である。勝興寺は、約540年前、蓮如が創建した浄土真宗寺院である。本堂は寛政7年（1795年）に建立され、平成10年より、6年3か月をかけて大修理を終えた。

正面の柱に、はつきりと楕円の埋木が見える。その下には横になった盃型の埋木。柱の模様を龍に見立て、「月を見ながら、龍が酒を飲んでいる」姿と伝わる。縁に上がると、瓢箪の埋木。なるほど酒はここにあった。

また屋根の四隅には天の邪鬼がいて、小さな体で200年以上も屋根を支えている。

勝興寺に見られるこれらのディテールは、大工の遊び心といわれる。なぜ、節の埋木で龍を楽しませ、邪鬼に屋根を支えさせたのか。大工たちは説明はしない。ただ形に込めた。言い伝えだけが現代に届き、その思いと手の跡はさらに後世へ。平成17年、本坊などの修理が始まり、平成30年の完成をめざす。

●高岡市伏木古国府17-1
JR伏木駅から徒歩4分

※埋木（つめぎ）とは、木の節や傷んだ部分を切り取って、他の木を埋め込む技法。

